

戦気 NO-35

Fighting Spirit

発行者:三谷大和
 編集者:岩井 淑
 八千代市八千代台東1-44-13 三谷大和スポーツジム
 電話 & Fax:047(486)2476 ツヨクナロー
 メール:mitani-y@khaki.plala.or.jp
 URL:http://www.mitani-yamato.com/

マスコットの
 ごんごちゃんです!



11月26日 日本スーパーフェザー級2位 岩井大 松崎選手に勝利!

11月26日、岩井大は、日本Sフェザー級2位の松崎博保選手(協栄ジム:25戦20勝10KO4敗1分)に挑戦。大は1Rから挑戦者として積極的に攻撃を続け、8ラウンドフルの戦いに2:0(78:75、78:75、76:76)の判定勝ちを収めた。

大のこれまでの戦績は9戦7勝4KO2敗であり、松崎選手の戦績の半分にも満たない。リングに上がった松崎選手は大きく息を吸い込み、大よりも緊張しているように見えた。一方、大は全くリラックスしているように見えた。この差がラウンドを重ねるうちに試合内容となって現れた。

大は新たにセコンドについて加藤選手の指示を確実に実行していった。前半4ラウンドまでは互角か、やや松崎選手のペースだったが、後半5ラウンドからは大が試合を完全にコントロールしていった。

大は左ジャブを的確にヒットさせ、右ストレート、左フック、右ボディを続ける。松崎選手も右ストレート、左フックで応戦するが大の動きの方が優っているし、パンチのヒット率も高い。7ラウンドには大の右ストレートで松崎選手は左目尻をカット。松崎選手は焦り、身体のバランスが崩れ、ますますパンチが大振りになり正確性が落ちた。

大はアナウンサーの勝利コールに嬉し涙を流していたが、これからの戦いにそが厳しさを増し正念場を迎えていく。



最終第8ラウンド 大の左ジャブを被弾しのけぞる松崎選手

篠塚和也 3R TKO負け(11/26)



篠崎の対戦相手は丸野雄太郎選手(角海老宝石ジム:1戦1敗)。

篠崎は1ラウンドから積極的に出て、1分30秒に右フックでダウンを奪う。その後も左右フックが決まるが、頭が低いことでレフェリーから注意を受ける。2ラウンドに入り篠塚は疲れて来たの

か被弾が目立つようになる。3ラウンドでは相当バテたようで、身体がふらつきバランスが悪く丸野選手のパンチを打たれ続けた1分48秒でレフェリーストップでTKO負け。今回は自分で動き回りスタミナを切らしてしまった試合だった。

鬼ヶ島竜 1R KO勝ち(11/26)



鬼ヶ島にとって対戦相手である濱中優一選手(国際ジム:19戦12勝7KO7敗)は、今年3月11日の戦いでダウン応酬の末に4ラウンド失神KOで敗れ、屈辱の担架退場させられた相手だけにリベンジの一戦だった。

前回は減量に失敗し体調不良でリングに上がった鬼ヶ島であったが、今回リングに上がった姿は全く違った。動きに本来の動きが戻った。3発の右ストレートで3度ダウンをとり、あっけなく1ラウンド57秒で試合を終わらせてしまった。鬼ヶ島にとって前回からの8ヶ月間は辛く苦しかったと思う。今回の一戦で再スタート台に立った。目標を高く掲げ進んで行こう。

三谷会長のコメント

大は、ラスト2ラウンドを動けるか、動けないかでドローにもなったし、最後は足を使うフライ級のボクシングを指示したら

その指示通り動いた。行け行けのワシの指示を加藤がストップし、ガチンコ勝負を避けた。大は頭を使う完璧な試合だった。インターバルでは相手コーナーを見て、相手がどれだけ疲れているか観察し終盤に足を使って動けば、相手は付いてこれないことは分かっていたからね。今日の一番の勝因は兄貴分の加藤が大に張り付いて面倒を見たことだ。加藤、ありがとう。そして大、おめでとう。来年はタイトルに挑戦するぞ。

鬼ヶ島は、パンチに切れがあった。相手をよく見て右フックが切れていたのがダウンを奪った。1ラウンドの展開は前回と同じだったが違った点は、ダウンをとったあとセコンドを見て、こちらの指示に従ったことだ。新しい三谷ジムの色が今回の2人の試合からスタートしたことを示したと思う。

ごんごちゃんを見た!!



11月23日、神宮外苑の銀杏並木が黄色に色づく秩父宮ラグビー場で恒例の早慶戦が戦われました。結果は10年ぶりに慶応大学が早稲田大学に2点差で勝利しました。今シーズン最高入場者数を記録し、試合も熱戦でした。試合を振り返ってみると、やはりミスした早稲田が負けました。早稲田はインゴールでタックルされ2度もノックオンをやり、ペナルティによるゴールキックも再三外しました。ボクシングもそうですがミスをしないう集中力が求められます。

スケジュール

12月06日 福本雄基 日本スーパーフライ級タイトルマッチ

編集後記

26日の後楽園ホールは名古屋の世界タイトルマッチの影響で静かな雰囲気でした。しかし鬼ヶ島の鮮やかなKOシーンに続き、大と松崎選手の熱戦に後楽園ホールの空気が一気に熱を持ったのが分かりました。日本第2位の松崎選手に真っ向勝負を挑んだ大の素晴らしい試合でした。